住民（水俣・芦北地区）の総検診を

訴訟支援
県民会議

「不顕性」で県に申入れ

水俣病の病変が脳細胞にはあつても症状が表面に現われない「不顕性水俣病」があることがこのほど明らかにされたが「水俣病訴訟支援・公害をなくする県民会議」は五日、県に対して芦北、水俣地区住民の総検診を実施してほしいと申し入れた。

この日、馬場県総評議長ら同会

議に参加している団体の代表十人は県庁で藤本企画、伊藤衛生両部長と会い、「芦北、水俣地区の住民は、不顕性水俣病があることがわかつて、このところ不安を募らせている。こうした住民の不安を消すためにも、一斉検診の必要がある」と述べ、①両地区住民の一斉検診を実施し②さらに今後も定

期的に検診する③また新潟水俣病に比べ、水俣病の診定基準がきびしいので再検討してほしい——の三点を申し入れた。

これに対し伊藤衛生部長は「総検診となると、技術的に困難な問題が出てくる。しかし今後、検討したい」と答えた。